

# 2023年度 決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

**ZEON**

2024年4月25日  
日本ゼオン株式会社

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）
- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異
- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要
- P.23 政策保有株式の状況
- P.25 2024年度 事業環境
- P.27 2024年度 業績予想
- P.28 2024年度 配当金予想
- P.29 自己株式取得および消却

## 【総括】

- ◆ Q4連結実績は対前年同期で増収増益、対前期で増収減益
- ◆ 年間連結実績は対前年同期で減収減益、対業績予想で増収増益
- ◆ 2024年度業績は対前年度で増収増益を予想

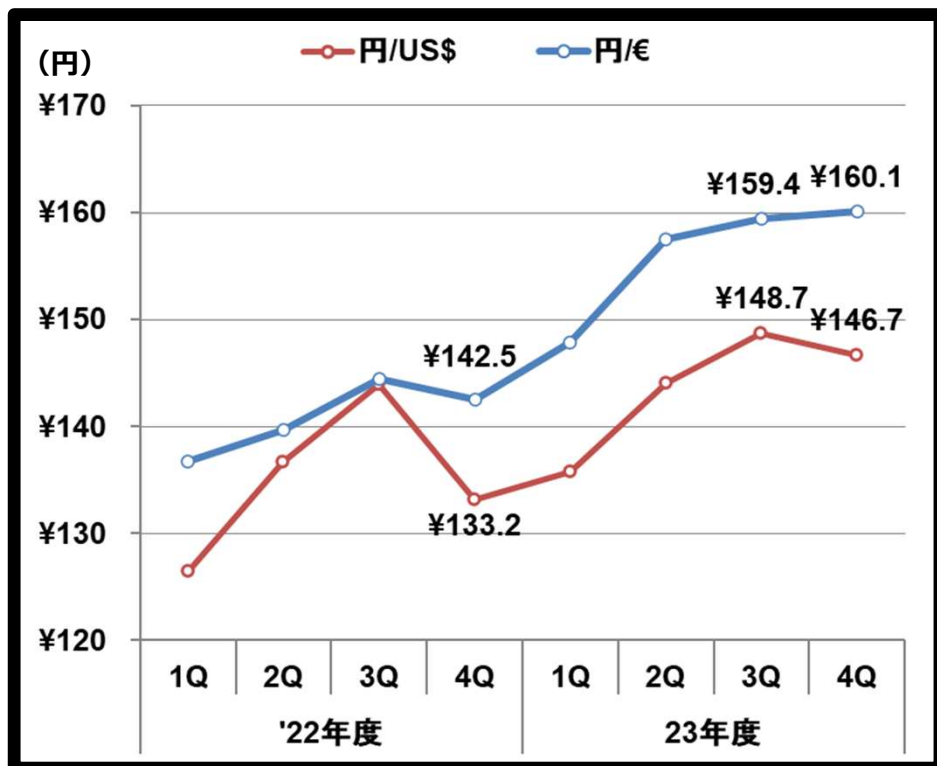
## 【エラストマー素材の概況】

- ◆ 合成ゴムの需要および出荷は総じて堅調に推移し、YoYは増収増益
- ◆ 出荷量増に伴いQoQは増収となるも、年度末の間接部門費用配賦増等により減益

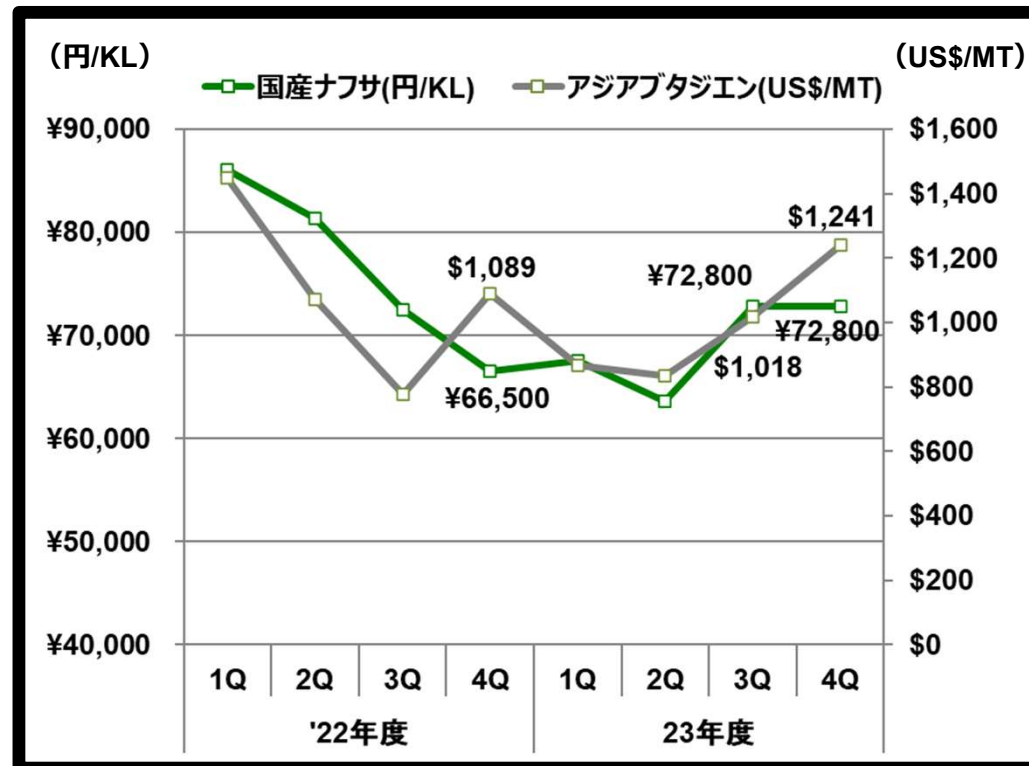
## 【高機能材料の概況】

- ◆ 高機能樹脂：能登半島地震影響でQoQは減収となるも、光学樹脂の出荷量増により増益、中小型フィルムの出荷量増も貢献しYoYは増収増益
- ◆ 高機能ケミカル：YoY、QoQともに電池材料は海外関連会社の期ズレ影響等で増収、出荷量減および販管費横ばいの影響で減益

## 【為替推移】



## 【主原料推移】



		2022年度 Q4	2023年度 Q3	2023年度 Q4	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥133.2	¥148.7	¥146.7	+10%	▲1%
	円/€	¥142.5	¥159.4	¥160.1	+12%	-
主原料	国産ナフサ/KL	¥66,500	¥72,800	¥72,800	+9%	-
	アジアブタジエン/MT	\$1,089	\$1,018	\$1,241	+14%	+22%

※国産ナフサ：2022年度Q4及び2023年度Q3は確報値、2023年度Q4は当社見込値

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
- P.5 業績サマリー（全体）**
- P.6 業績サマリー（セグメント別）**
- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異
- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要
- P.23 政策保有株式の状況
- P.25 2024年度 事業環境
- P.27 2024年度 業績予想
- P.28 2024年度 配当金予想
- P.29 自己株式取得および消却

(単位：億円)

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2022年度 Q4累計	2023年度 Q4累計	対前年 同期比
	2022年度 Q4	2023年度 Q3	2023年度 Q4	YoY 増減	QoQ 増減			
売上高	944	984	985	+41	+1	3,886	3,823	▲63
営業利益	▲7	65	45	+52	▲20	272	205	▲67
経常利益	3	69	70	+67	+1	314	269	▲45
当期純利益	▲77	105	102	+179	▲4	106	311	+205

- 前年同期比 : 売上高 +41億円、営業利益 +52億円
- 前期比 : 売上高 +1億円、営業利益 ▲20億円
- 通期対前年度比 : 売上高 ▲63億円、営業利益 ▲67億円

注記：海外関係会社の2023年10～12月実績がQ4連結決算に反映されています。

(単位：億円)

【売上高】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2022年度 Q4	2023年度 Q3	2023年度 Q4	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	549	550	556	+7	+7
高機能材料	239	277	283	+44	+6
その他の事業、消去等	157	157	146	▲11	▲12
売上高合計	944	984	985	+41	+1

【営業利益】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2022年度 Q4	2023年度 Q3	2023年度 Q4	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	▲20	25	5	+25	▲20
高機能材料	18	36	30	+13	▲6
その他の事業、消去等	▲4	4	10	+14	+6
営業利益合計	▲7	65	45	+52	▲20

# 2023年度 業績サマリー（セグメント別）

（単位：億円）

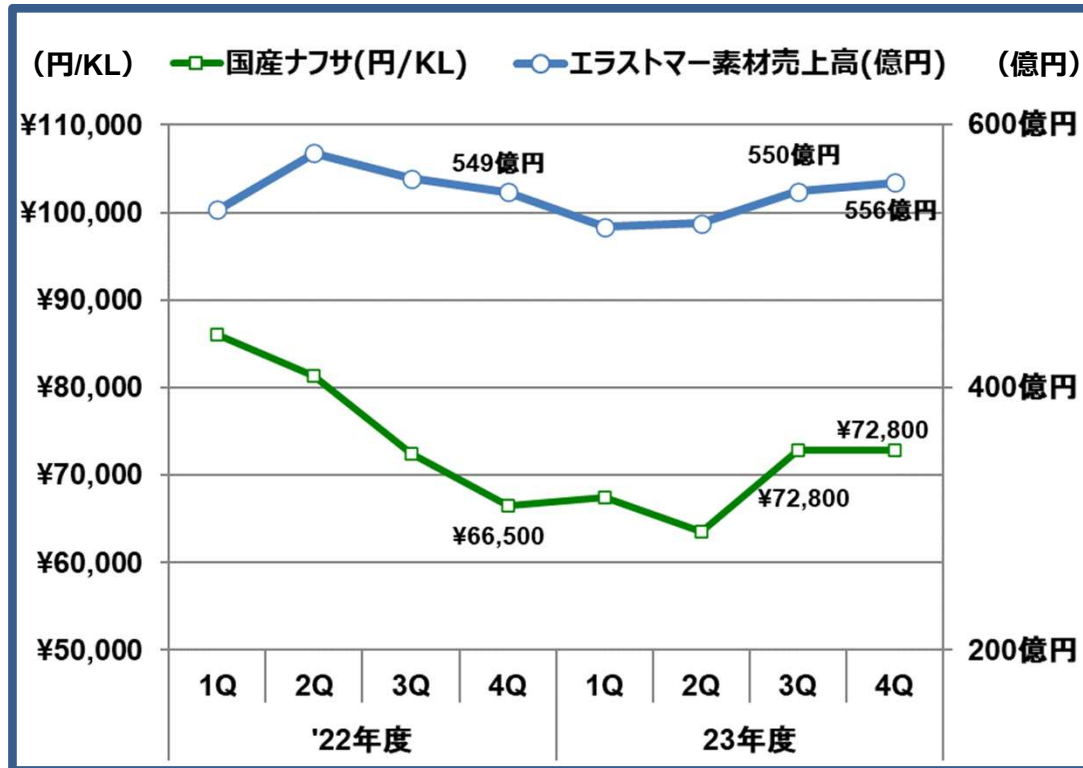
【売上高】	2022年度 通期	2023年度 業績予想 (1/31時点)	2023年度 通期	対前年 同期比	対業績 予想比	対業績 予想比率
エラストマー素材	2,222	2,120	2,153	▲ 69	+33	+2 %
高機能材料	1,054	1,030	1,074	+20	+44	+4 %
その他の事業、消去等	610	590	596	▲ 14	+6	+1 %
売上高合計	3,886	3,740	3,823	▲ 63	+83	+2 %

【営業利益】	2022年度 通期	2023年度 業績予想 (1/31時点)	2023年度 通期	対前年 同期比	対業績 予想比	対業績 予想比率
エラストマー素材	102	73	66	▲ 35	▲ 7	▲ 9 %
高機能材料	183	114	132	▲ 51	+18	+16 %
その他の事業、消去等	▲ 13	▲ 2	6	+19	+8	- %
営業利益合計	272	185	205	▲ 67	+20	+11 %

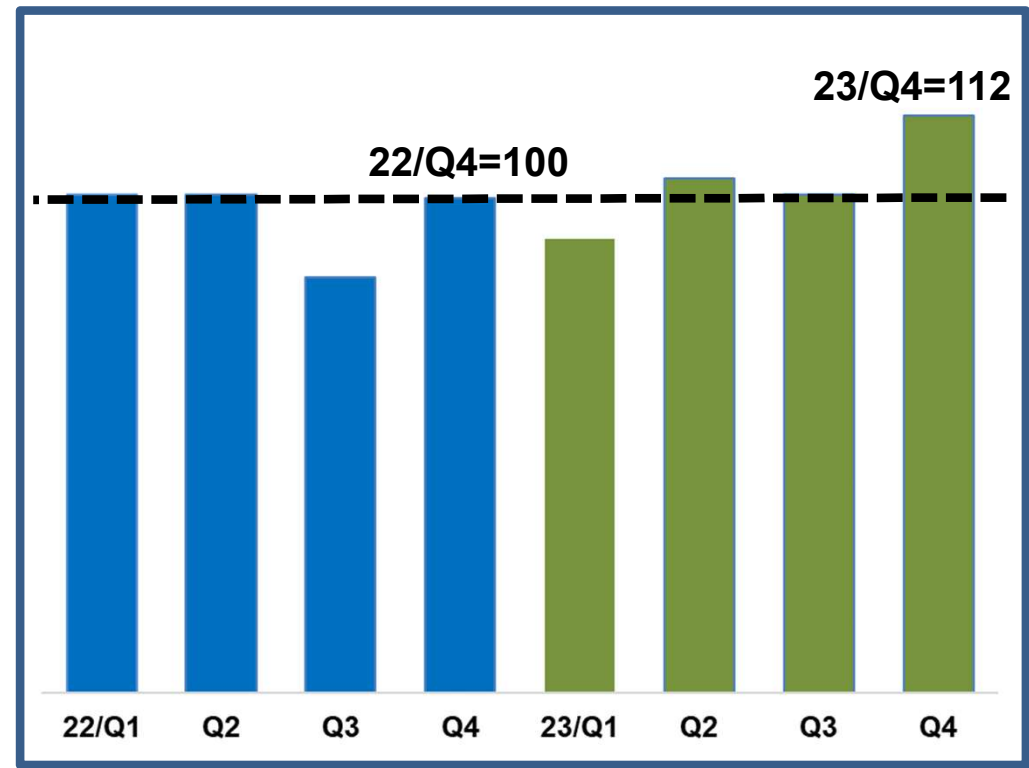


P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	<b>エラストマー素材 概況</b>
P.10	<b>エラストマー素材 P/L</b>
P.11	<b>エラストマー素材 営業利益差異</b>
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.23	政策保有株式の状況
P.25	2024年度 事業環境
P.27	2024年度 業績予想
P.28	2024年度 配当金予想
P.29	自己株式取得および消却

【国産ナフサ価格とエラストマー素材売上高推移】



【合成ゴム出荷量推移】



- エラストマー素材の売上高はYoY、QoQともに増加
- 合成ゴムは海外向けの出荷が回復、自動車用途を中心に出荷は堅調

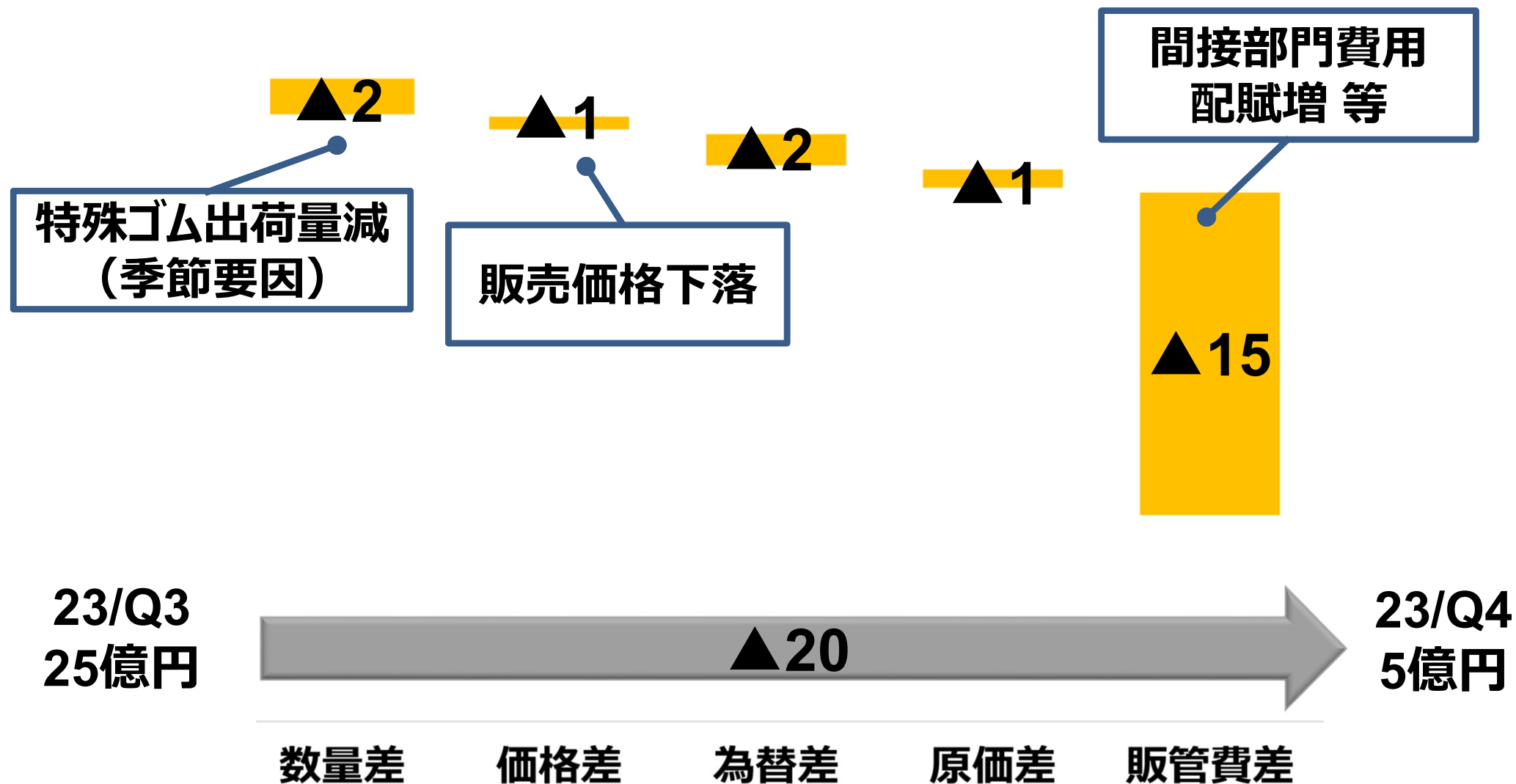
(単位：億円)	2022年度 Q4	2023年度 Q3	2023年度 Q4	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (22/Q4=100)	100	101	111	11 pt	11 %	10 pt	10 %
合成ゴム	100	101	112	12 pt	12 %	11 pt	11 %
ラテックス	100	97	110	10 pt	10 %	13 pt	13 %
化成品	100	106	112	12 pt	12 %	6 pt	5 %
売上高	549	550	556	7	1 %	7	1 %
合成ゴム	400	420	412	13	3 %	▲ 7	▲ 2 %
ラテックス	29	27	30	1	3 %	3	13 %
化成品	107	90	99	▲ 8	▲ 8 %	8	9 %
その他・消去	13	13	15	2	16 %	2	16 %
営業利益	▲ 20	25	5	25	- %	▲ 20	▲ 81 %
営業利益率	▲ 4%	5%	1%				

■ 手袋向けラテックスおよび化成品は出荷回復傾向にあるものの、力強さを欠く

■ 営業利益は合成ゴム堅調によりYoYは増益、QoQは年度末の間接部門費用配賦増等により減益

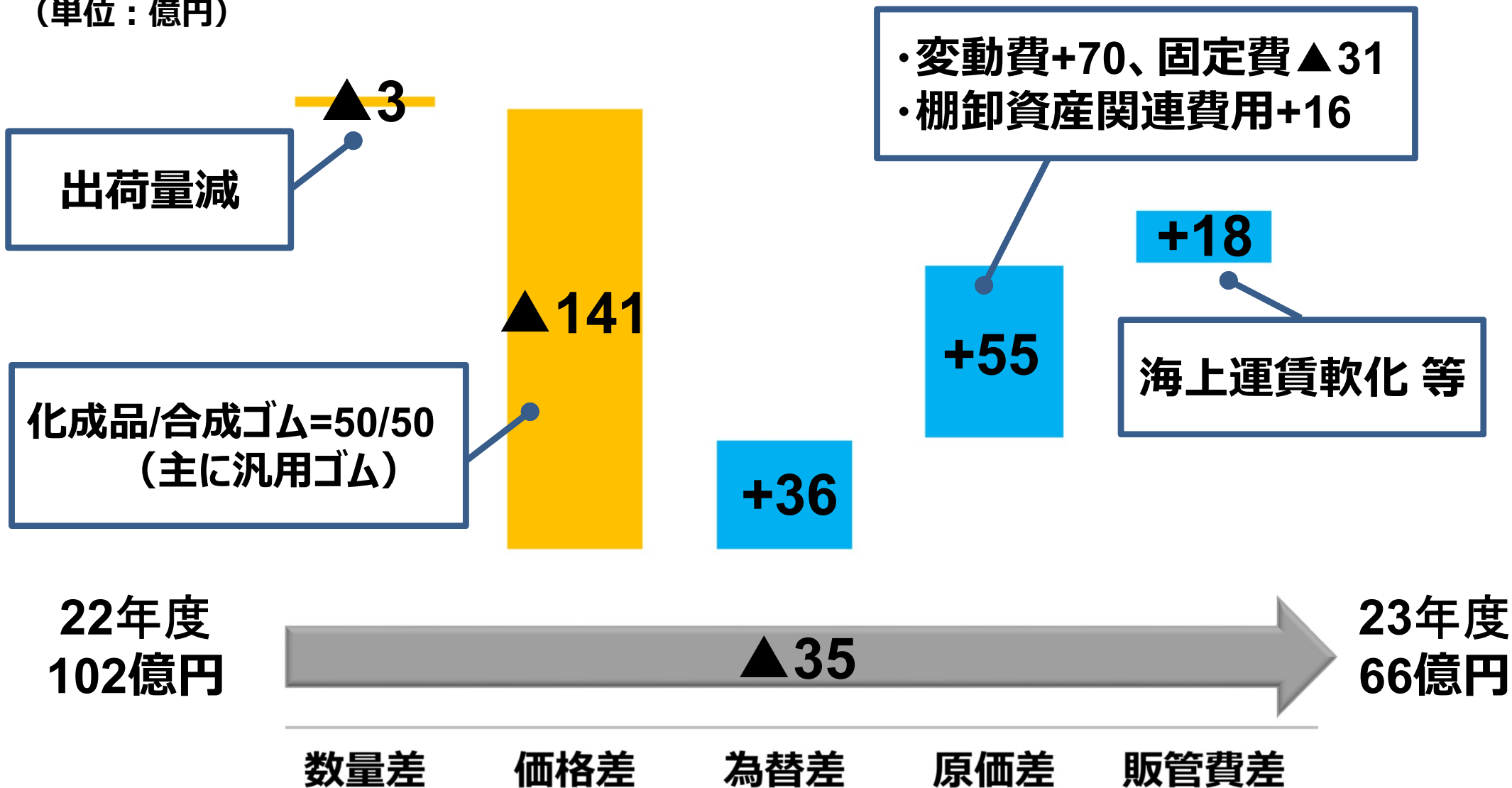
# エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)



# エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異（年間YoY）ZEON

（単位：億円）



- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）
- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異
- P.14 高機能材料 P/L**
- P.15 高機能材料 営業利益差異**
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況**
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況**
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況**
- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要
- P.23 政策保有株式の状況
- P.25 2024年度 事業環境
- P.27 2024年度 業績予想
- P.28 2024年度 配当金予想
- P.29 自己株式取得および消却

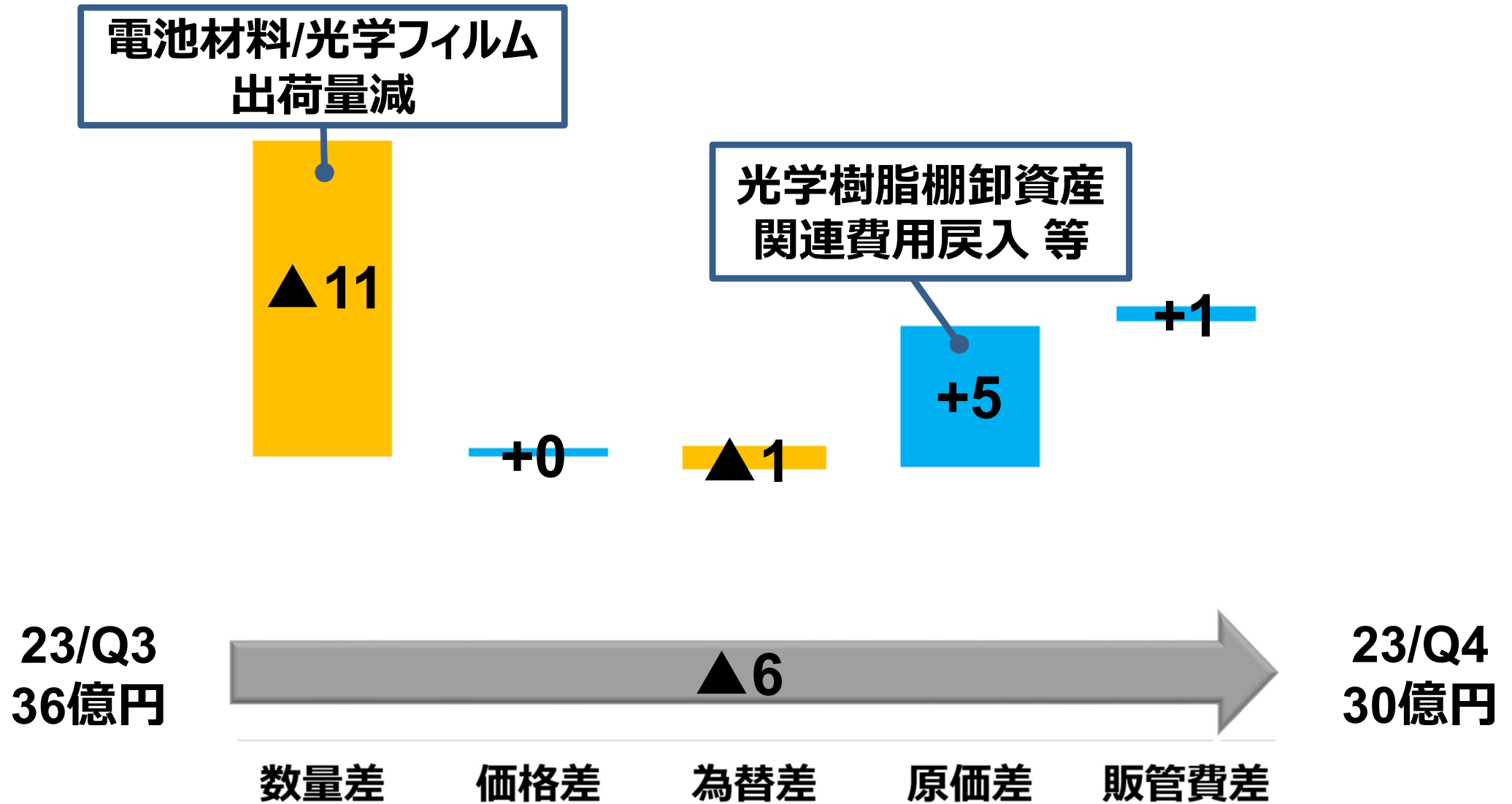
(単位：億円)	2022年度 Q4	2023年度 Q3	2023年度 Q4	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
<b>売上高</b>	239	277	283	44	19 %	6	2 %
※ 高機能樹脂	135	165	158	24	18 %	▲ 6	▲ 4 %
高機能ケミカル	95	102	114	19	20 %	13	12 %
メディカル他	9	10	10	1	16 %	▲ 0	▲ 2 %
<b>営業利益</b>	18	36	30	13	74 %	▲ 6	▲ 15 %
営業利益率	7%	13%	11%				

※ 高機能樹脂 : 光学樹脂、光学フィルム  
 高機能ケミカル : 電池材料、化学品、電子材料、トナー

■ 高機能樹脂 : QoQは地震影響により減収となるも、光学樹脂の出荷量増により増益、YoYは中小型フィルムの出荷量増も貢献し増収増益

■ 高機能ケミカル : 電池材料は海外関連会社の期ズレ影響等でYoY、QoQともに増収となるも、出荷量減および販管費横ばいの影響でQoQ、YoYともに減益

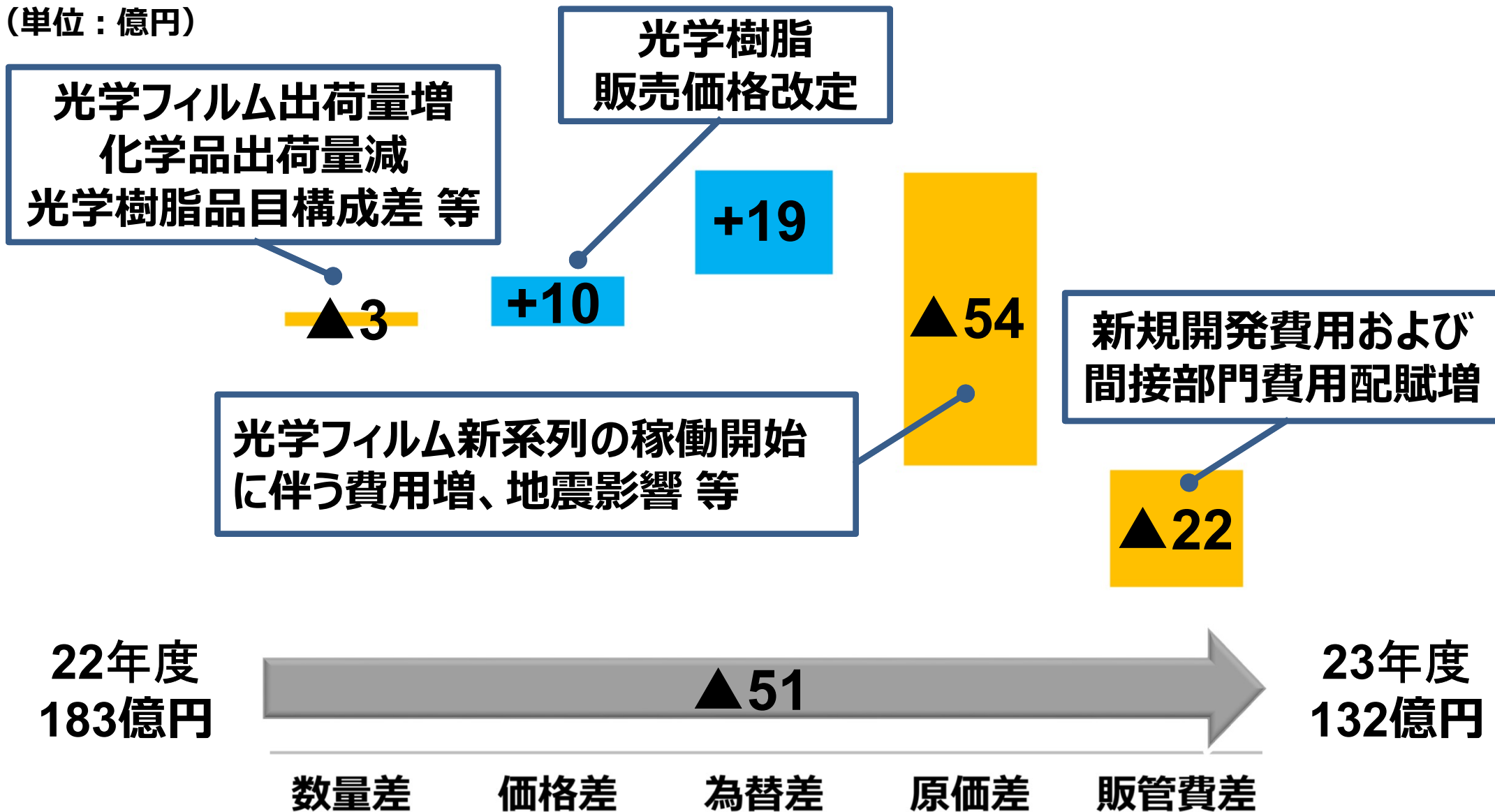
(単位：億円)





# 高機能材料事業：要因別 営業利益差異（年間YoY） ZEON

(単位：億円)



	YoY	QoQ	YoY累計
EV向け	106%	60%	104%
民生他向け	229%	133%	111%
全体	119%	68%	106%

## ■ EV向け

グローバルでのEV販売不振および中国春節に向けた出荷前倒し後の影響により、QoQは出荷量減

## ■ 民生他向け

モバイル端末向けは緩やかに回復、ESS用途向けの販売が伸び、YoY、QoQともに出荷量増

	YoY	QoQ	YoY累計
光学用途向け	118%	103%	97%
医療その他向け	110%	118%	106%
全体	112%	115%	104%

## ■ 光学用途向け

スマホ向け、プリンター向けともに復調傾向にあり、YoY、QoQともに出荷量増

## ■ 医療その他向け

顧客の需要増および半導体市場の回復が重なり、YoY・QoQともに出荷量増

	YoY	QoQ	YoY累計
中小型向け	134%	82%	91%
大型向け	85%	71%	135%
全体	92%	73%	124%

## ■ 中小型向け

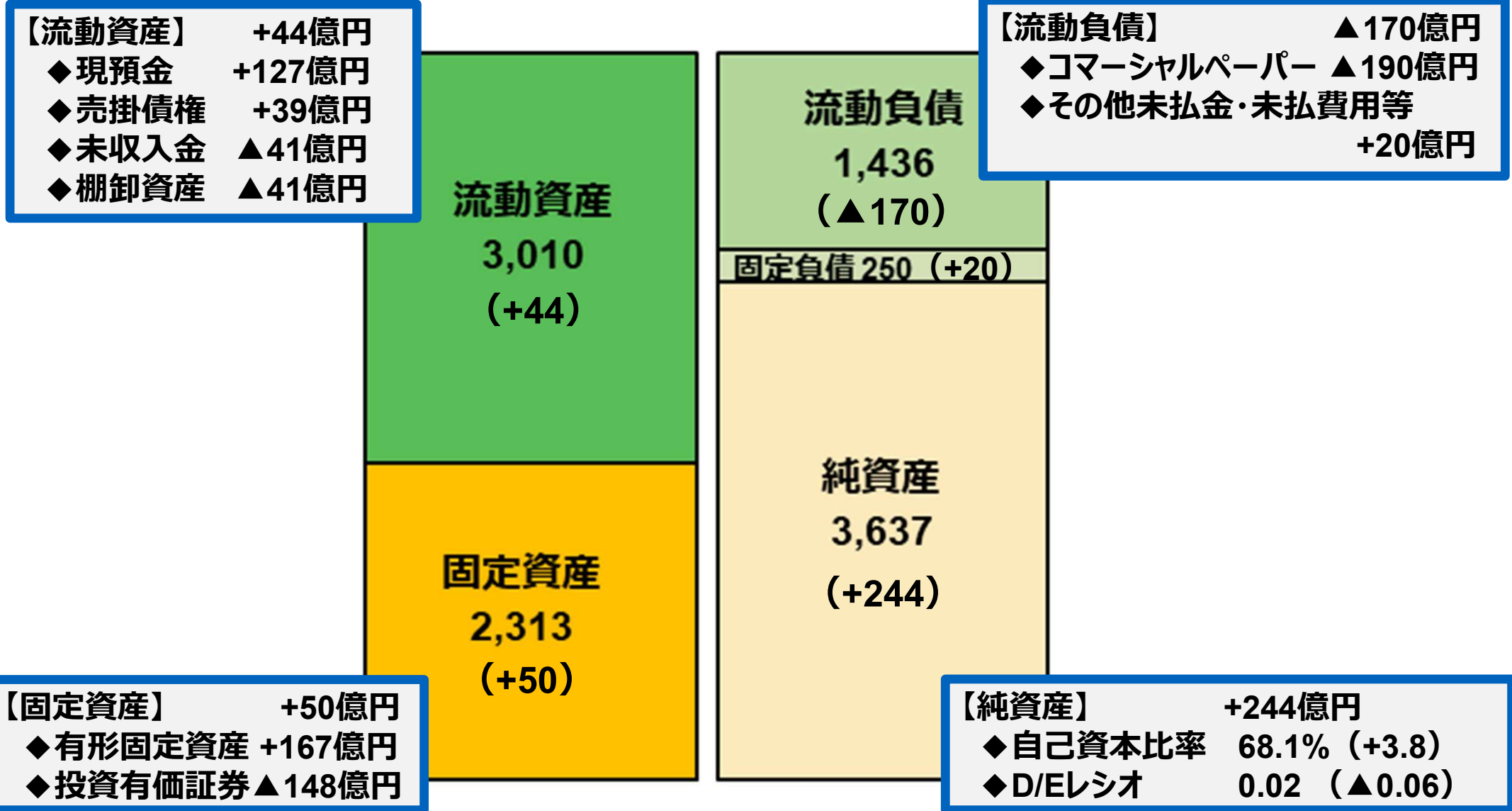
スマホ向けおよびタブレット向け堅調によりYoYは出荷量増となるも、4Qはスマホ向け出荷端境期となりQoQは出荷量減

## ■ 大型向け

能登半島地震による操業一時停止の影響で、YoY、QoQともに出荷量減となるも、3/29に全面復旧完了

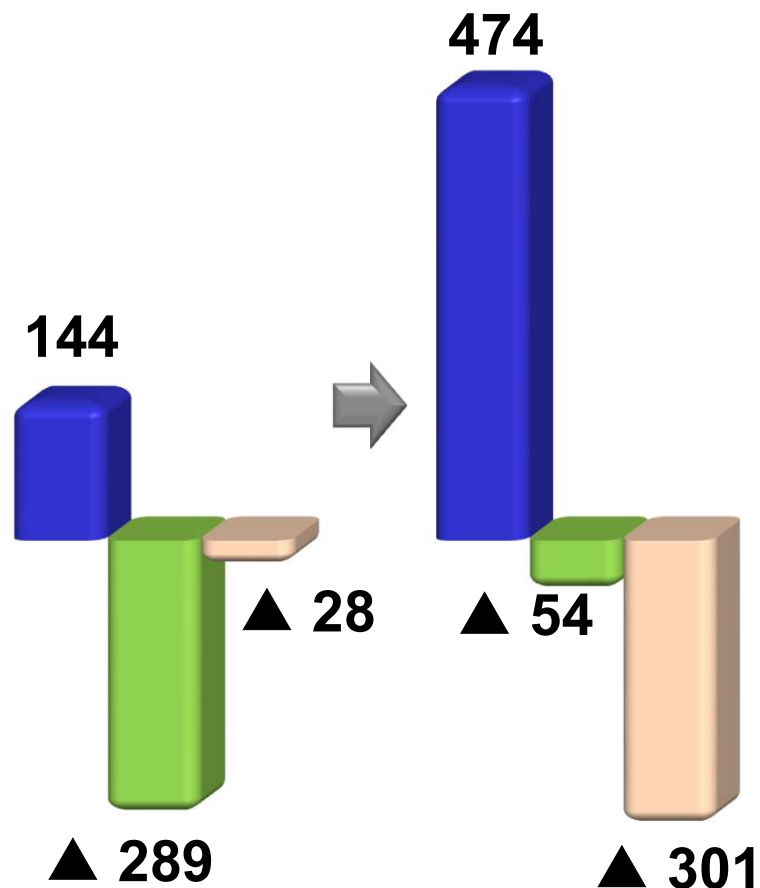
P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
<b>P.21</b>	<b>B/S概要</b>
<b>P.22</b>	<b>C/F概要</b>
<b>P.23</b>	<b>政策保有株式の状況</b>
P.25	2024年度 事業環境
P.27	2024年度 業績予想
P.28	2024年度 配当金予想
P.29	自己株式取得および消却

## 総資産5,323億円 (+94)



(単位：億円)

2022年度Q4      2023年度Q4



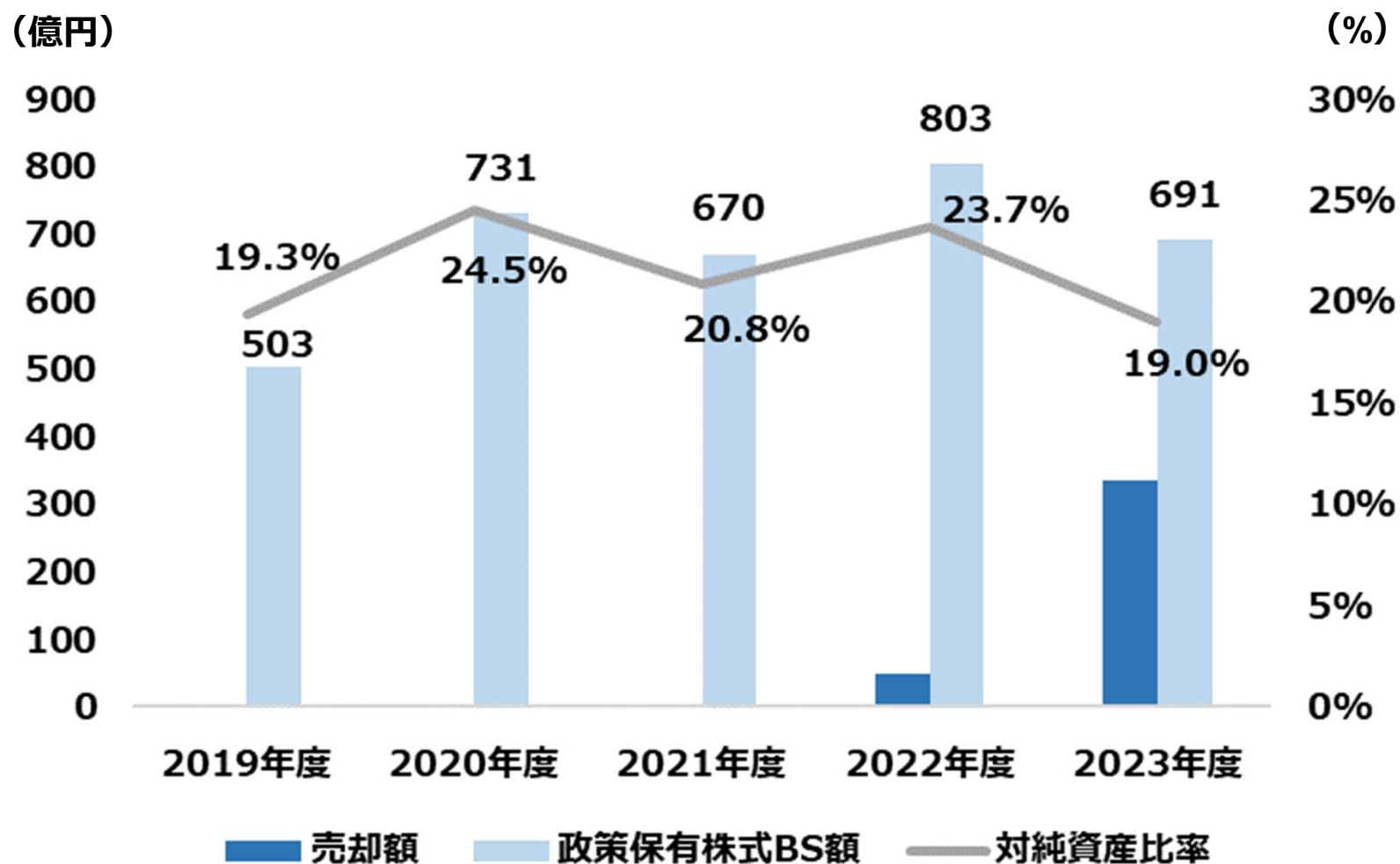
■ 営業CF   ■ 投資CF   ■ 財務CF

(単位：億円)

	2022年度Q4	2023年度Q4
営業CF	144	474
投資CF	▲ 289	▲ 54
フリーCF	▲ 145	420
財務CF	▲ 28	▲ 301
CF	▲ 174	119

【営業CF】	+330億円
◆ 税前利益	+293億円
◆ 評価処分損	▲ 140億円
◆ 株式売却益	▲ 224億円
◆ 運転資金	+365億円
◆ 税金	+45億円
◆ その他	▲ 9億円

【財務CF】	▲ 273億円
◆ 資金調達	▲ 280億円
◆ 配当金	▲ 29億円
◆ 自己株式取得・消却	+40億円



- 2024年3月末の政策保有株式対純資産比率は19.0%
- 資本効率性向上に向け、今後も継続して縮減を進める



P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.23	政策保有株式の状況
P.25	<b>2024年度 事業環境</b>
P.27	<b>2024年度 業績予想</b>
P.28	<b>2024年度 配当金予想</b>
P.29	<b>自己株式取得および消却</b>

		2024年度		
エラストマー 素材  (億円)	売上 予想	営利 予想	事業環境	
		2,215	100	2023年度に対し、売上高+62、営業利益+34
合成ゴム			自動車市場は地域で差はあるものの需要は堅調 対23年度で増収増益の見込	
ラテックス			手袋向け市場は緩やかに回復	
化成品			粘着テープ市場は地域で差はあるも緩やかに回復	

※2024年度の動向は2023年度比

		2024年度		
高機能材料 (億円)	売上 予想	営利 予想	事業環境	
		1,155	155	2023年度に対し、売上高+81 営業利益+23
光学樹脂			光学/医療その他向けともに需要は堅調の見込	
光学フィルム			大型向け生産ライン全面復旧により出荷回復の見込 タブレット/ノートPCは復調、スマホは低調の見込	
電池材料			グローバルでのEV販売不振の影響	

※2024年度の動向は2023年度比

(単位：億円)

【売上高】	2023年度 実績	2024年度 上期予想	2024年度 下期予想	2024年度 業績予想	業績予想 差異
エラストマー素材	2,153	1,115	1,100	2,215	+62
高機能材料	1,074	570	585	1,155	+81
その他の事業、消去等	596	295	305	600	+4
<b>売上高合計</b>	<b>3,823</b>	<b>1,980</b>	<b>1,990</b>	<b>3,970</b>	<b>+147</b>

【営業利益】	2023年度 実績	2024年度 上期予想	2024年度 下期予想	2024年度 業績予想	業績予想 差異
エラストマー素材	66	50	50	100	+34
高機能材料	132	55	100	155	+23
その他の事業、消去等	6	5	5	10	+4
<b>営業利益合計</b>	<b>205</b>	<b>110</b>	<b>155</b>	<b>265</b>	<b>+60</b>

■ 年間業績予想は売上高3,970億円、営業利益265億円

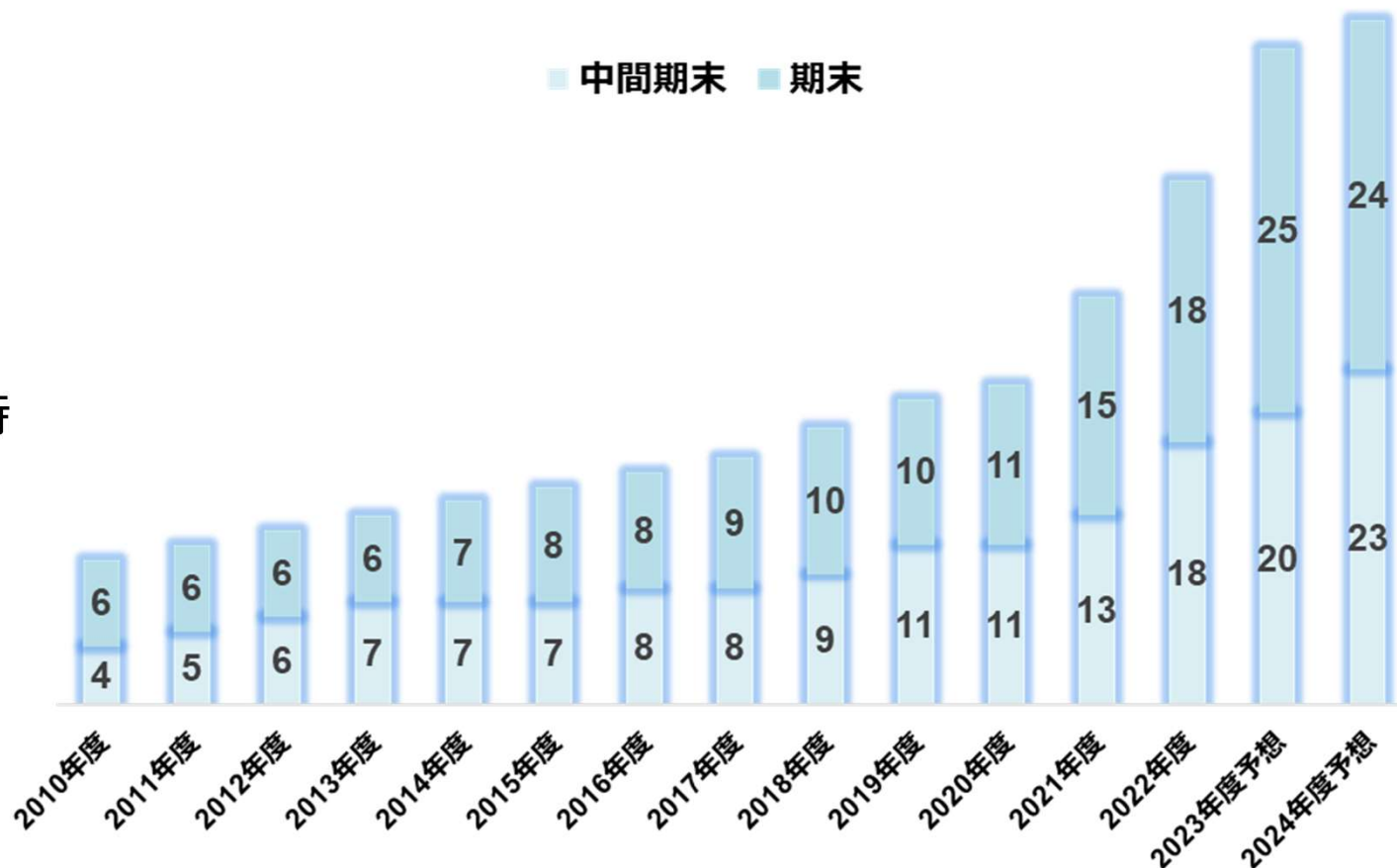
予想前提：US\$=145円、€=155円、国産ナフサ=¥68,000、アジアブタジエン=US\$900

## 【配当金予想、単位：円】

■ 中間期末 ■ 期末

### 株主還元方針

- 安定的・継続的な配当を維持
- 配当性向30%以上を維持
- 自己株式の取得は市況や資金需要等を勘案し機動的に実施



- 期末配当金を前回予想20円から25円 (+5円) に増配し、2023年度の年間配当金は45円を予想 (配当性向30.6%、対前年度+9円)
- 2024年度の配当金は年間47円を予想 (対前年度+2円)  
年間配当額は2010年度から15期連続増配予想

## 1. 自己株式の取得および消却を行う理由

株主還元の充実及び資本効率の向上を図るため。

## 2. 取得に係る事項の内容

(1) 取得対象株式の種類	当社普通株式
(2) 取得し得る株式の総数	1,000万株（上限） （発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 4.73%）
(3) 株式の取得価額の総額	100億円（上限）
(4) 取得期間	2024年5月7日～2025年3月21日
(5) 取得方法	信託方式を用いた市場買付

## 3. 消却に係る事項の内容

(1) 消却する株式の種類	当社普通株式
(2) 消却する株式の総数	上記2により取得した自己株式の全株式数
(3) 消却予定日	2025年4月4日

■ 1,000万株/100億円を上限に、自己株式の取得および取得した全株式の消却を決定

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

中期経営計画 説明会	2024年6月11日を予定
2024年度 Q1決算発表	2024年7月29日を予定






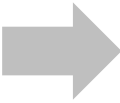



※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

# ZEON

日本ゼオン株式会社

以上

統合報告書  
2023年度版は[こちら](#)

2023年度Q4 (2023年度Q3比)				
事業	出荷	売上	営業利益	QoQ差異説明
合成ゴム				<ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷量は海外汎用品を中心に増加</li> <li>・特殊品期末在庫調整（季節要因）等で減収</li> <li>・期末間接部門費用配賦増等により減益</li> </ul>
ラテックス				<ul style="list-style-type: none"> <li>・手袋向け出荷増</li> <li>・期末間接部門費用配賦増等により営利ステイ</li> </ul>
化成品				<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘着剤市場が回復し、出荷量と売上は回復</li> <li>・期末間接部門費用配賦増等により減益</li> </ul>



2023年度Q4 (2023年度Q3比)						
事業	出荷	連結		単体 収益認識基準調整 なし		QoQ差異説明
		売上	営業利益	売上	営業利益	
光学樹脂						・出荷量増により増収増益
光学フィルム						・能登半島地震の影響で減収減益
電池材料						・出荷量減となるも、海外関連会社の期ズレ影響等により増収

## アップサイド

エンドマーケット需要回復の早期化

為替の円安化

市況回復の早期化

円安ドル高

景気回復

円安ユーロ高

## ダウンサイド

エンドマーケット需要低迷の長期化

為替の円高化

市況回復の長期化

円高ドル安

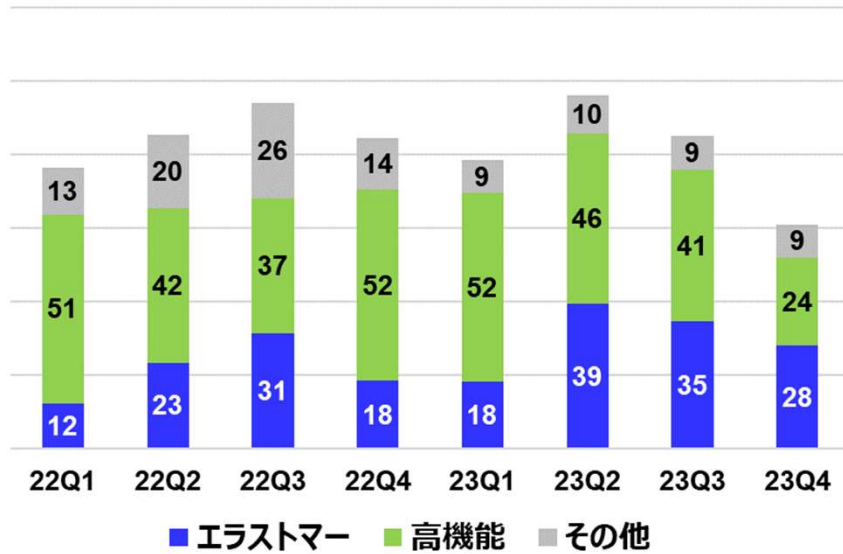
景気悪化

円高ユーロ安

# 参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

【資本的支出】

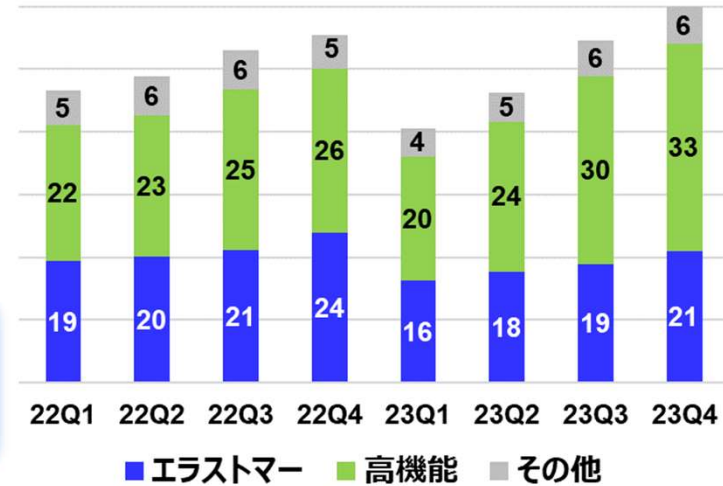


22年度実績  
340億円

23年度実績  
322億円

24年度予想  
390億円

【減価償却費】

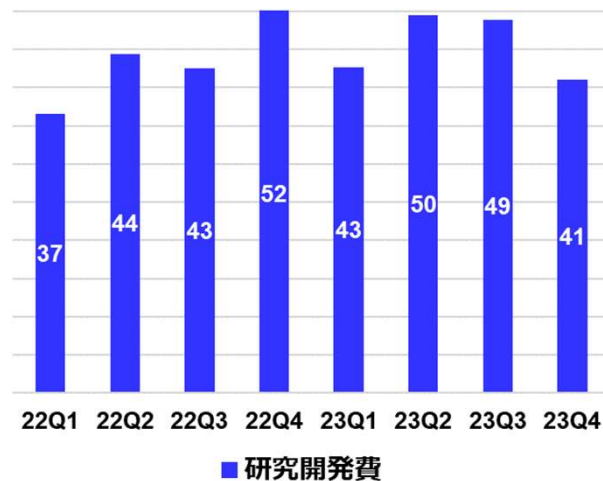


22年度実績  
204億円

23年度実績  
202億円

24年度予想  
215億円

【研究開発費】



22年度実績  
176億円

23年度実績  
182億円

24年度予想  
188億円